

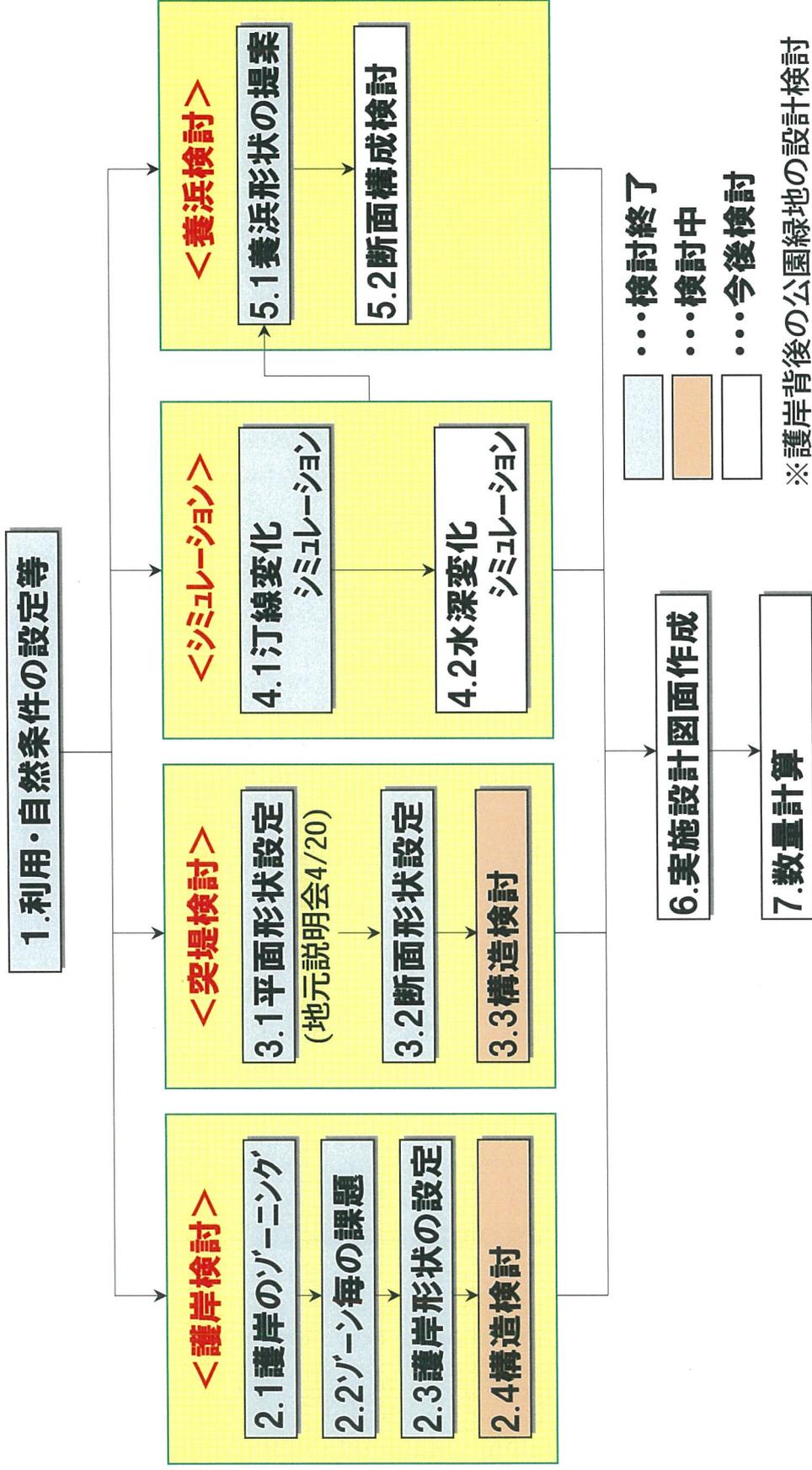
平成18年度
中城湾港泡瀬地区環境保全・創造検討委員会
第1回 委員会資料
〔人工海浜実施設計の進捗状況〕

平成18年7月10日

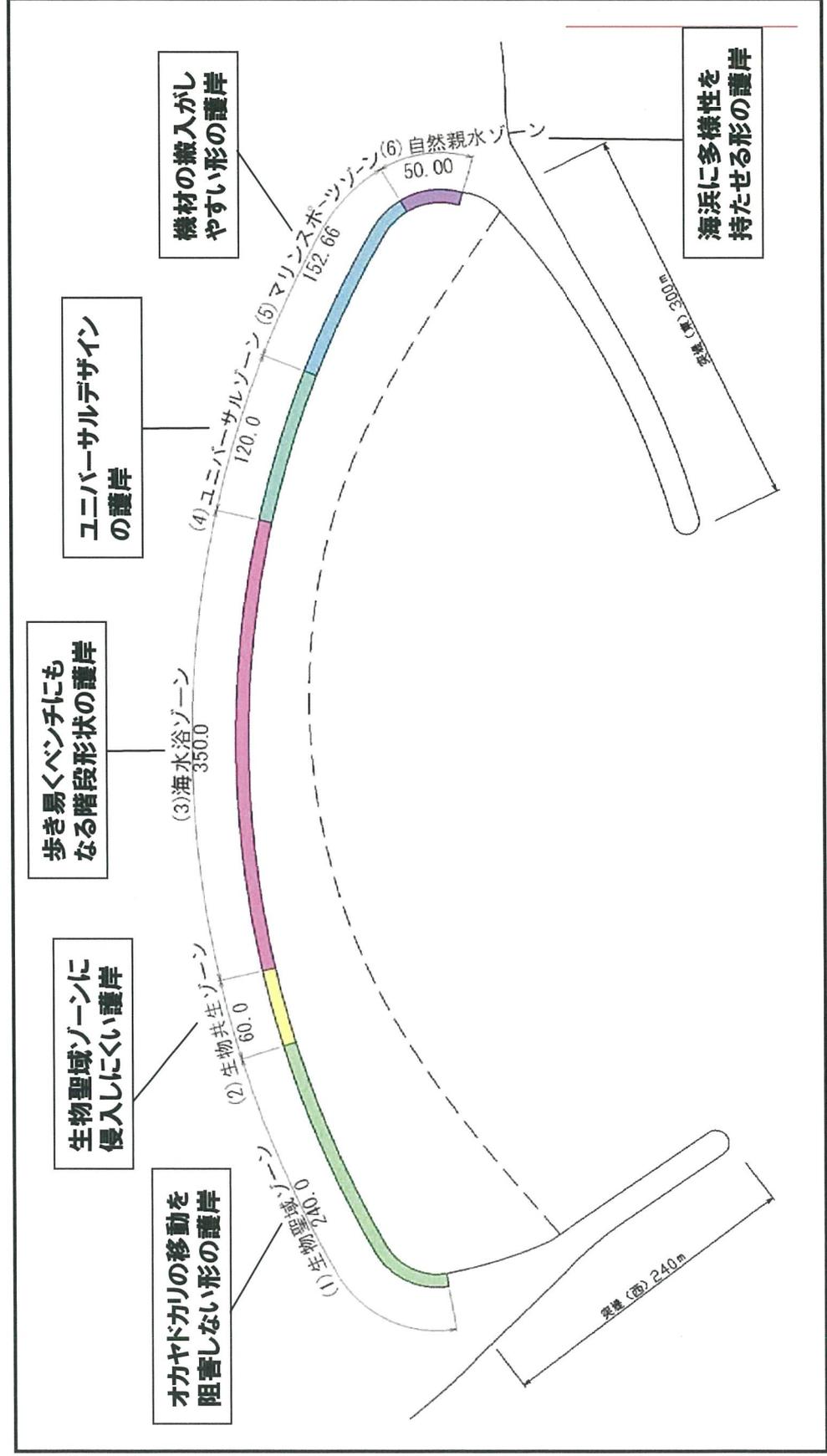
沖縄県土木建築部

人工海浜実施設計の検討フロー

(履行期限：平成18年9月30日)



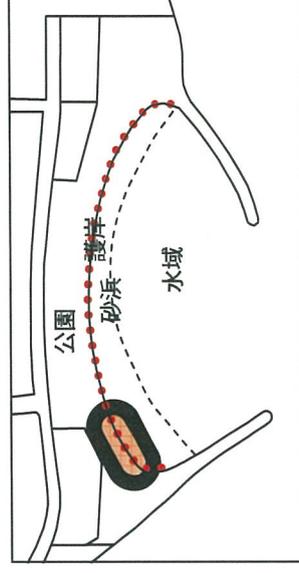
護岸検討：ゾーン毎の延長



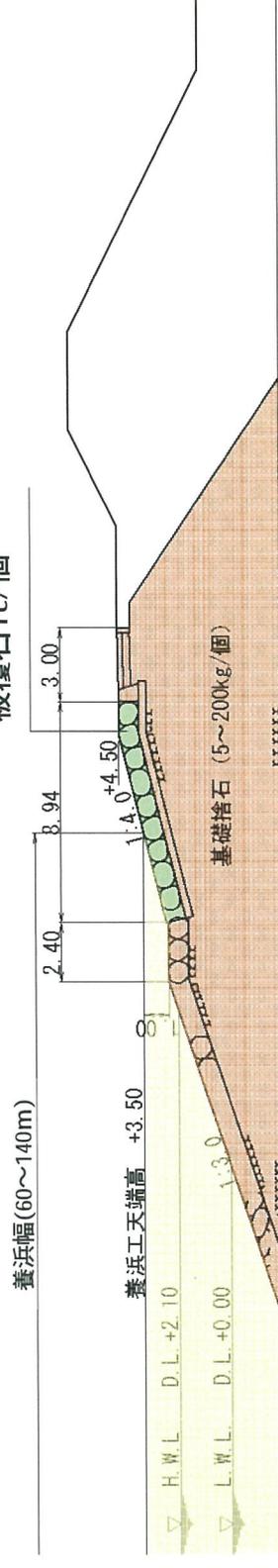
護岸検討：護岸形状検討

●生物聖域ゾーン：240m

オカヤドカリは、5cm程度の落差でも移動が困難となるため、護岸上にも砂が被っている状況とする。



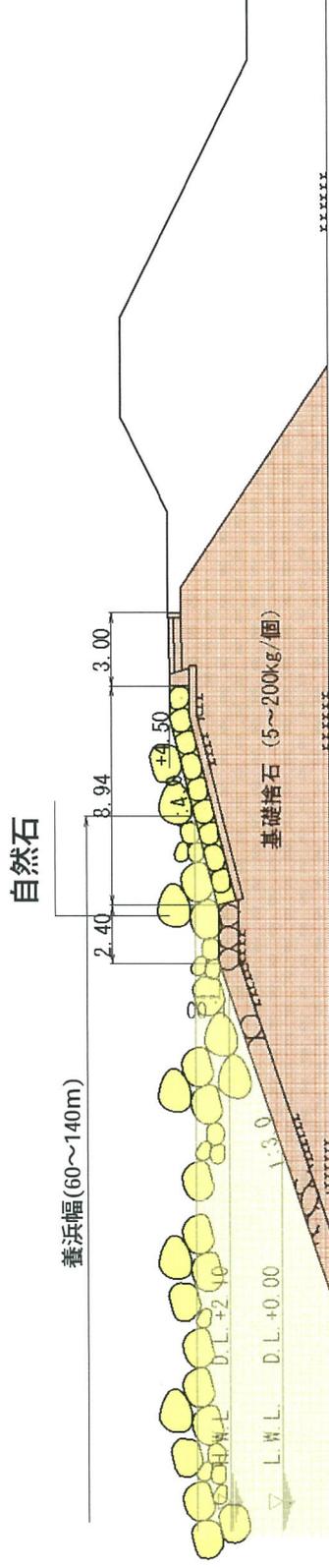
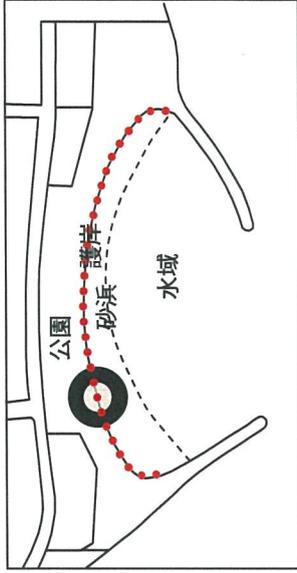
被覆石1t/個



護岸検討：護岸形状検討

●生物共生ゾーン：60m

生物聖域ゾーンへの人の進入を視覚的・雰囲気的に防ぐため、ランダムな自然石配置を行う。

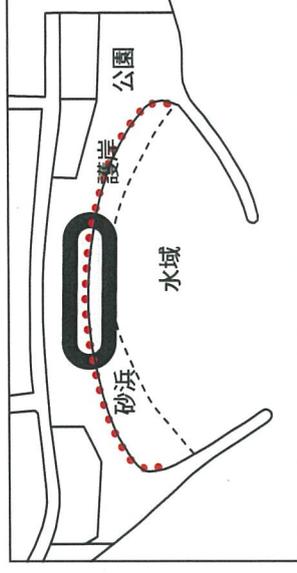


護岸形状検討

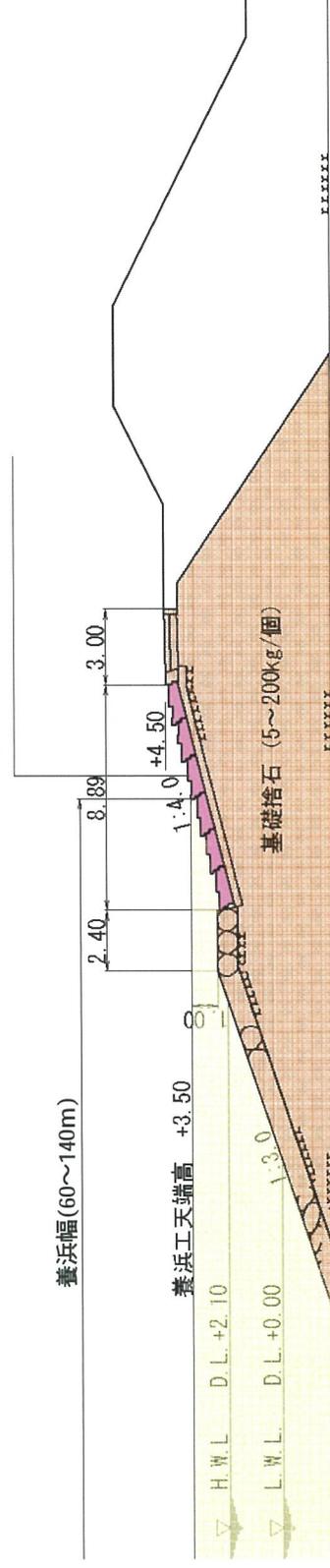
●海水浴ゾーン:350m

フラットな踏面と、小さな蹴上(10~15cm程度)によって、高齢者や小さな子供でも移動しやすい階段護岸とする。

部分的に、ベンチ変わりともなる、大きな踏面と比較的大きな蹴上(15~25cm程度)の階段護岸とする。



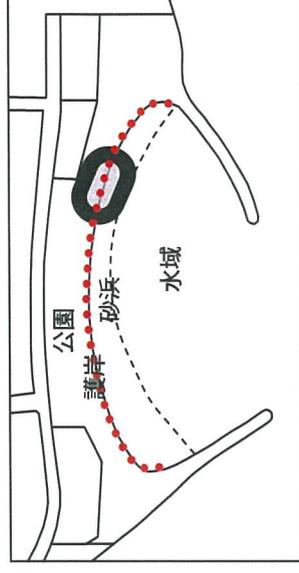
階段ブロック (2t型)



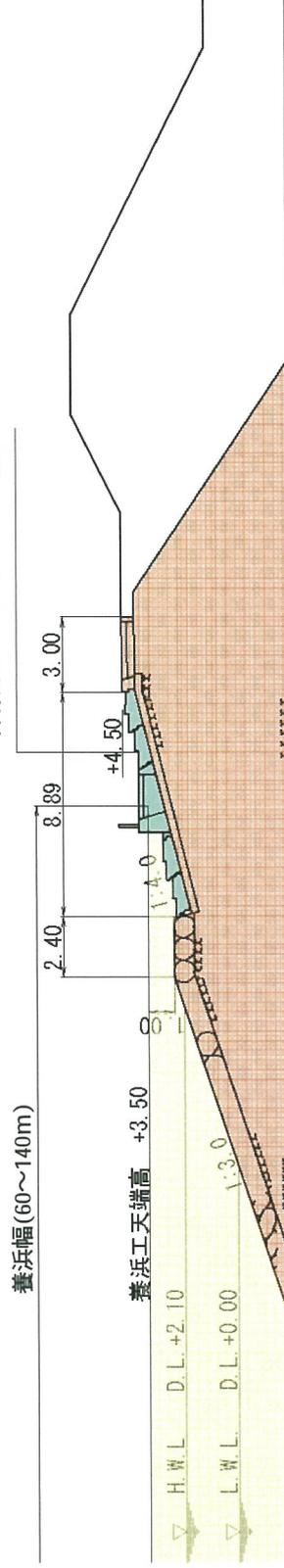
護岸検討：護岸形状検討

●ユニバーサルゾーン：120m

高齢者や小さな子供、さらには車椅子利用者でもアプローチしやすいよう、また、横方向への移動においても安全に歩行できるよう、階段護岸の踏面には、勾配を設けず、かつ、奥行きも広さも適度なタイプを導入し、一般的な階段に近い形状を目指す。



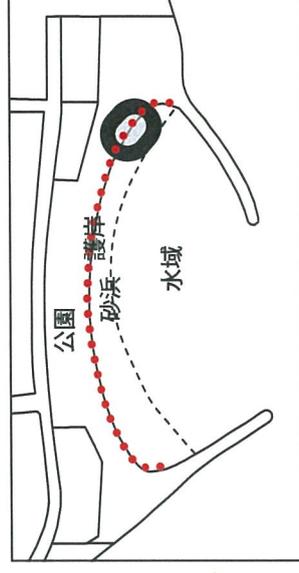
階段ブロック (2t型)



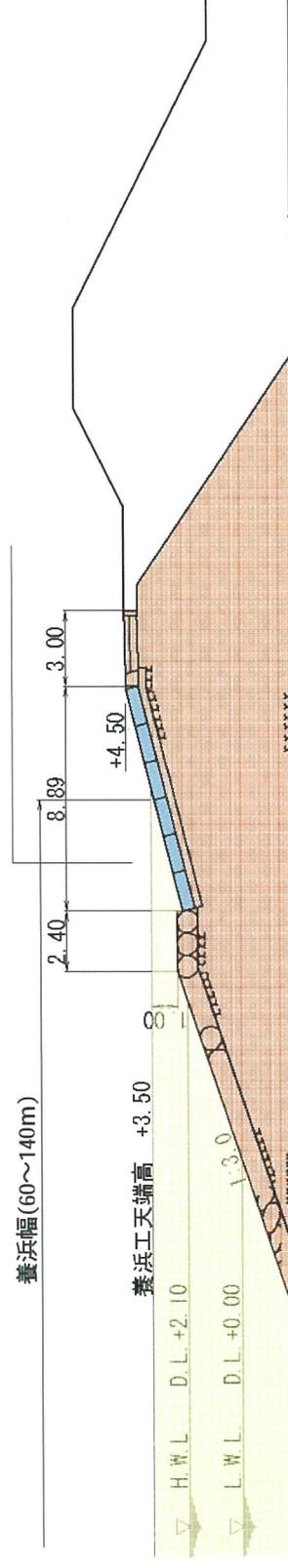
護岸形状検討

●マリンスポーツゾーン:152.66m

シーカヤックやボードセーリング、パーソナルウォータークラフト(ジェットスキー)など、マリンスポーツ活動に使用する機材の搬入が容易となるよう、階段形状ではなくスロープ状の緩傾斜護岸を整備する。



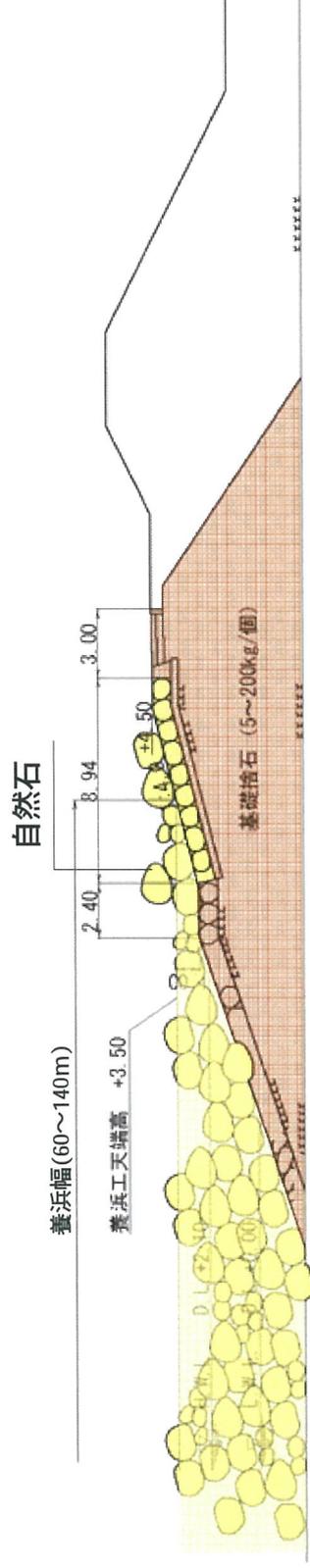
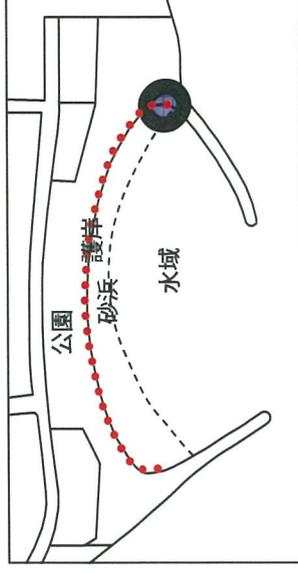
平型ブロック (2t型)



護岸検討：護岸形状検討

●自然親水ゾーン：50m

人が積極的に利用できる砂浜以外の海岸形状として、比較的静穏な水域であることを活かした、タイドプールを備えた人工磯場的な親水護岸とする。



突堤検討：比較評価

	 <p>【Type:1】 「長めの突堤のみ」</p>	 <p>【Type:2】 「突堤＋離岸堤」</p>
利用面	離岸堤がないため、海洋性レクリエーション利用の多様性が比較的劣る。	離岸堤の活用により、より多くの海洋性レクリエーション利用が可能となる。
景観面	Type2よりも、海への眺望が確保される。	Type1に比べて、海への眺望が、比較的阻害される。
経済面	総延長がType2よりも短く、経済性に優れる。	総延長がType1よりも長くなるため、経済性では比較的劣る。
安全面	静穏な水域が比較的大きく確保されるため、Type2よりも安全性に優れる。	開口部によって複雑な潮流の発生が予想され、遊泳者に対する安全性が懸念される。
総合評価	○	△

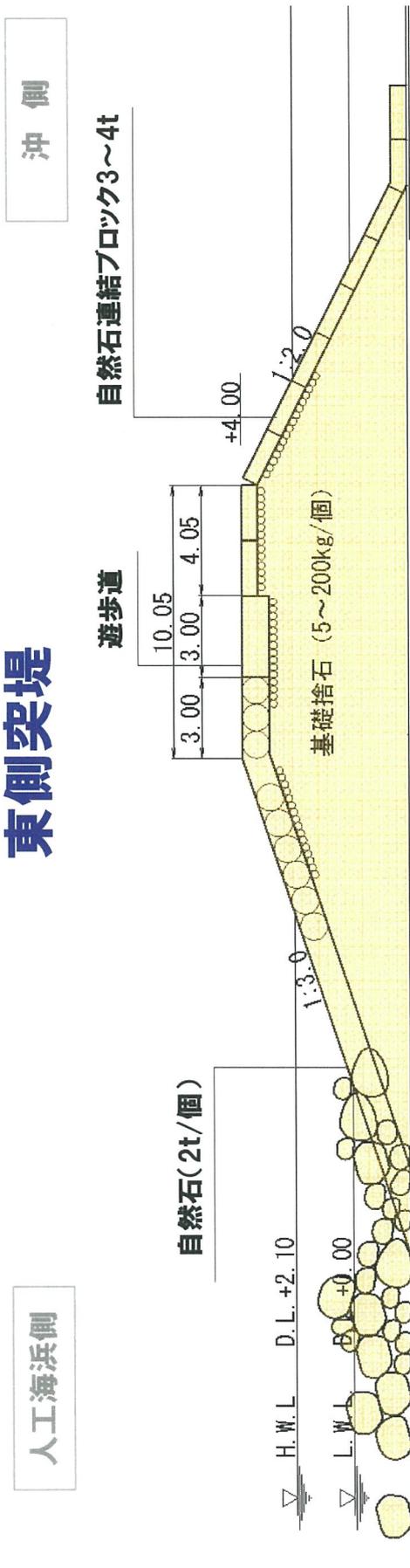
突堤検討：形状の決定

Type:1「長めの突堤のみ」を採用



突堤検討：断面形状の検討

東側突堤



西側突堤

